

# 福島を忘れない

東日本大震災と原発事故から5年が経つ。

本誌では、これまで、福島の被災・避難地の子ども、学校の実状を伝える特集編集に努めてきた。放射線被ばくへの不安、長期化する避難生活のなかでの先行きが見えない苦悩、さまざまな選択・決断をせまられる自治体行政、地域と教育を支える人びとの営み、不安と向きあいながらも互いに支えあい前を向いて進もうとする子ども、教師たち。そうした姿をできるかぎり伝えてきた。

原発事故の要因は依然として明らかにされていない。廃炉・汚染水問題、中間貯蔵施設問題、除染をめぐる問題等々、問題は山積している。

だが政府は、「帰還困難区域」を除き、「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」指定を2017年3月までに解除することを決定した。「帰還」は強制避難指示からの規制緩和策であるとして、避難者たちの苦悩や心の痛みなどは考慮されることもない。問題は山積みなのに、「復興」のかけ声だけが飛び交っている。

帰還によって、避難先で営まれてきた学校が廃止されることになれば、困難を支えあってきた子どもたちと教師に再び別れを強いることになる。原発災害は、被災・避難による理不尽を強いたうえに、「復興」を名目に、再び悲しみをもたらすのだろうか。

本号では、あらためて子ども、学校、地域の現状を見つめ、課題を探ることにする。福島を忘れないために。